

維持ステージ

1) 標的行動をしなくなった状態の維持

① 治療作業の概要

前のステージまでに積み重ねてきた治療作業を、頻度を下げて継続する。

② このステージの作業の主な効果

このステージの開始までに、治療の標的とする行動の方向を司る反射連鎖、並びに駆動を司る反射の作動性は弱いものになっている。また、標的の行動を一時的にとめる制御刺激の作動性は強いものになっている。

それらの反射の状態を維持し、より安定させるのがこのステージの各作業である。

この研修会の講義2で解説するように、現生の動物の第一信号系において、一時期、頻回に成功した行動を司った反射は、後に抑制されても、刺激されず放置されれば、その間に反射は回復する性質をもつ。その性質に基づき、治療の標的とする行動が再び生じることを予防するためにこの維持ステージがある。

③ 作業の頻度と期間

制御刺激 1日に5回以上

疑似 1日に2回以上

想像 1日に2回以上（完了のときは、20単語の書き出しをする。）

良かったことの読み返しと20単語の書き出し 1日に2話以上

辛かったことの読み返しと20単語の書き出し 1日に2話以上

標的行動の描写文の読み返し 1週間に1度程度

期間 一生

2) 継続させる方法

① 外来

患者が外来に受診する際は、必ず作業回数記録票をもってきてもらい、それを医師が見る。また、毎日、あるいは毎週、あるいは毎月、LINE やメールを用いて、作業回数累積票や20単語を書き出したノートの写真を担当医に送る。

② 回復支援施設

下総精神医療センターと関係の深い回復支援施設では、条件反射制御法の担当係があり、その者が入寮者の作業回数累積票や20単語を書き出したノートの写真を送る

③ 刑務所

毎月、服役中の者に作業回数累積票を送る。

返事は求めない。受刑者が出せる発信数は制限があり、医療者よりも親族への発信を優先させる